

第2次ブーストック計画における2024年の取組状況について

東京都建設局公園緑地部計画課
2025年3月

■第2次ブーストック計画の概要

第2次ブーストック計画は、都立動物園・水族園（建設局所管の恩賜上野動物園、多摩動物公園、葛西臨海水族園、井の頭自然文化園及び環境局所管の大島公園動物園）を取り巻く状況の変化を踏まえ、平成元（1989）年度に策定した「ブーストック計画」を大幅に見直し、平成30（2018）年に策定された計画である。

124種の動物を対象とし、種それぞれに「飼育繁殖」「保全情報」「普及啓発」の3つの分野について、10年後の目標を設定し、それに向かって計画を立案し進めていく。

（1）飼育繁殖

計画的な繁殖と種の適正管理を推進し、国内外の野生動物保全に取り組む関係機関等との連携を強化しながら、種の保存に取り組む。

（2）保全情報

生物学的情報や保全取組情報を整理し、生息域外保全及び生息域内保全に貢献する。飼育マニュアルを策定し、都立動物園で培ってきた飼育繁殖技術等を維持していく。

（3）普及啓発

ブーストック種を活用した様々な環境学習や情報発信に取り組む。また、都立動物園等が将来の野生動物保全の担い手を育む場となるべく、効果的な環境教育や野生動物保全の普及啓発を推進する。

■取組状況について

上記（1）～（3）の項目について、その目標達成に向けて毎年、計画の作成及び実施状況の確認を行っている。計画対象の全124種について、令和6（2024）年（1月1日～12月31日）の成果などを以下のとおり報告する。

■2024 年の取組について

(1) 飼育繁殖について

繁殖を目指していた種のうち、哺乳類 11 種(インドサイ、マヌルネコ、アムールトラ等)、鳥類 14 種(オオフラミンゴ、トキ、ウミガラス等)、両生類 5 種 (アカハライモリ、ニホンアカガエル等)、魚類 5 種 (ミヤコタナゴ、トビハゼ等)、無脊椎 2 種(アナカタマイマイ、カタマイマイ)の繁殖に成功した。このうち 1 種 (コウノトリ) では受精卵を海外施設から導入し孵化・育成した国内初の事例となった。また、産卵は確認されたものの孵化に至らなかった事例は 10 種であった。

主な繁殖事例として、インドサイで 50 年ぶり、アムールトラやマヌルネコでも数年ぶりに自然繁殖により出産があり、順調に育っている。オオフラミンゴの繁殖は 5 年ぶりであり、トビハゼは仔魚の育成が課題であったが飼育環境の工夫を重ね繁殖に成功した。

チンパンジーやホッキョクグマ、ライチョウなどでは、精液採取や人工授精、受精卵の輸送、人工育雛など人工繁殖技術を利用した多くの取組が見られ、自然交配が困難な状況に置かれた個体の繁殖などの成果が得られた。一方で、コウノトリにおける海外から輸入した受精卵から孵化させた雛の育成の成功は、成体に捕獲や移動のストレスをかけずに新たな血統を導入する事が可能な事例となった。

《主な取組実績例》

- ・マヌルネコ、ライチョウが繁殖した。(上野動物園)
- ・インドサイが 50 年ぶりに自然繁殖し仔が順調に成長。(多摩動物公園)
- ・アムールトラが 2019 年以来の繁殖。(多摩動物公園)
- ・オオフラミンゴが 5 年ぶりに繁殖し多くが順調に成長。(多摩動物公園)
- ・ニホンカモシカ、トウキョウサンショウウオが繁殖。(井の頭自然文化園)
- ・トビハゼ、フンボルトペンギン、ウミガラスの繁殖。(葛西臨海水族園)
- ・バーバリーシープが繁殖し仔が成長。(大島公園動物園)

(2) 保全情報について

飼育技術の継承のため、各種の基礎的な情報や飼育繁殖のための基本事項等を全種において取りまとめ、随時更新している。令和 6 (2024) 年は、ブーストック種の生息域内および域外保全を推進するために、都立動物園以外の機関と連携した取組も多く、種卵や保存精液の輸送協力など繁殖に関する取組の協力、またホルモン測定などの繁殖生理や行動学などに関する研究などの共同研究も多く実施された。これら共同研究などの一部については、成果を会議や論文などで発表した。

《主な取組実績例》

- ・スマトラトラなどでは大学と連携して糞中あるいは血中の性ホルモン測定による発情周期の分析に取り組んでいる。(上野動物園)
- ・大学協力のもとホッキョクグマの人工繁殖に向けて精液採取、人工授精を実施した。(上野動物園)
- ・チーターについて、大学との共同研究で発情回帰を実現した。(多摩動物公園)
- ・コウノトリの有精卵を韓国から輸入し、園内で孵化・育成に成功。(多摩動物公園)

- ・海鳥類について、共同研究の遺伝的多様性に関する研究、行動・形態と流体力学に関する研究、漁業と海鳥に関する研究などの成果が鳥類学会で発表される。(葛西臨海水族園)
- ・日本動物園水族館協会の国内希少淡水魚保全の取組みに協力し、個体群管理者として国内各園の調整を行うとともに、タナゴ類の繁殖に用いられる淡水二枚貝類の飼育繁殖技術の確立に向けた情報収集および飼育試験を開始した。(井の頭自然文化園)
- ・バーバリーシープについて、仔へのマイクロチップ挿入開始により適切な飼育個体群管理の取組みを前進させた。(大島公園動物園)

(3) 普及啓発について

教育普及イベント、講演会やガイドなど多くの普及啓発活動が1年を通して各園で取組まれた。コロナ禍で工夫して行われてきたオンライン参加型のイベント手法が定着しており、シンポジウムや生息地との交流など多人数の参加が可能な企画が継続して実施されている。X(旧ツイッター)などのSNSやズーネットを利用したタイムリーな情報発信が強化されている。来園者への保全の取組の紹介も多く行われ、大島公園のカラスバト共同研究の成果について、インフォメーションセンターで来園者向けにパネル展示を行って発信した。

《主な取組実績例》

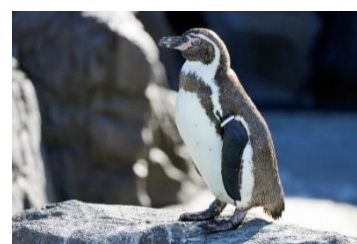
- ・ジャイアントパンダのリーリー・シンシンの中国への返還にあたり、来園者、都民への適切な情報発信や企画展の実施。(上野動物園)
- ・アフリカゾウの抜牙処置について「世界ゾウの日」での講演が好評。多くのメディアに取り上げられるなど豊富な情報発信。(多摩動物公園)
- ・ミナミメダカの普及啓発の取組として、教員向けの研修、「いきもののミカタ」プロジェクトでの情報発信、身近な水辺保全講演会などを開催した。(葛西臨海水族園)
- ・野生リスとその生息環境について学ぶ野外観察会、新聞社と共催した子ども向け企画、動物園友の会ジュニア向け企画など多くの企画を実施。(井の頭自然文化園)
- ・都立高校や国の研究機関との共同研究でえられたカラスバトの研究結果をインフォメーションセンター内で掲示して来園者に伝えた。(大島公園動物園)



50年ぶりに繁殖したインドサイ
(多摩動物公園)



ジャイアントパンダ、リーリーと
シンシンの中国への返還(上野動物園)



フンボルトペンギンの繁殖
(葛西臨海水族園)



野生のリスの生態を学ぶ観察会
(井の頭自然文化園)



環境省との連携でマイマイ類4種の
保護増殖事業に取り組む
(変温動物サブグループ)



カラスバトの共同研究成果
の展示 (大島公園動物園)

○全 124 種の取組状況一覧

	科	ブーストック計画 対象種名	取組園	取組状況
1	コアラ科	コアラ	多摩	・新たなペアで繁殖に取り組む ・コアラ来園 40 周年企画を実施
2	ゾウ科	アジアゾウ	上野	・2020 年に生まれたオス「アルン」と母ゾウ「ウタイ」の親子分離に向けた取組を進めている ・「世界ゾウの日」に多摩と連携した取組を実施
3	ゾウ科	スリランカゾウ	多摩	・若オスとメスの終夜同居を実施するなど、繁殖の取組を進めている ・「世界ゾウの日」に上野と連携した取組を実施。
4	ゾウ科	アフリカゾウ	多摩	・オスの抜牙を安全に実施した ・「世界ゾウの日」に抜牙について講演し好評を得た
5	キツネザル科	クロキツネザル	上野	・昨年生まれのメスの搬出先候補の情報収集を行った ・「世界キツネザルの日」における情報発信。
6	キツネザル科	ワオキツネザル	上野 大島	・適切な飼育繁殖管理のもと、上野で 1 頭が繁殖した。 ・「世界キツネザルの日」における情報発信。
7	キツネザル科	クロシロエリマキ キツネザル	上野	・ペアリングを実施したが、繁殖には至っていない。 ・「世界キツネザルの日」における情報発信
8	アイアイ科	アイアイ	上野	・余剰個体の搬出に向け国内動物園と情報交換。 ・現地での保全活動を行う NPO の年次総会に参加し情報交換 ・「世界キツネザルの日」における情報発信。
9	ロリス科	レッサースロー ロリス	上野	・日本動物園水族館協会の計画に基づく個体移動を実施 ・日本動物園水族館協会の計画管理者として国内の飼育園館との調整を実施
10	オマキザル科	ワタボウシタマリン	上野	・新たにメスを導入し、現有個体との繁殖を試みた
11	オナガザル科	ブラッサグエノン	上野	・成オスの搬出と新規メスの受け入れに向け情報集を実施
12_1	オナガザル科	ホンダザル	多摩	・遺伝的占有度を考慮した繁殖計画を推進 ・母系系統図、父子判定結果をもとに群れ管理計画を改定
12_2	オナガザル科	ホンダザル (下北個体)	上野	・サル山リニューアル工事のため全頭仮設舎へ移動させ、飼育管理を実施
13	オナガザル科	アビシニアコロブス	上野	・適切な血統管理のもと、1 頭が繁殖した。
14	テナガザル科	シロテテナガザル	上野 多摩	・上野に新規ペアを導入し繁殖に取り組んでいる。
15	ヒト科	ニシゴリラ	上野	・「世界ゴリラの日」に国内全飼育園と連携したイベントを実施。ワークショップではゴリラの危機を学ぶゲームを開発。使用済スマートフォンの回収を行い、保全に貢献。
16	ヒト科	チンパンジー	多摩	・2 年連続で人工授精による繁殖、群入りまで実施 ・日本こども学会での発表や出張授業など様々な普及啓発に取り組んだ。
17	ヒト科	ボルネオオランウー タン	多摩	・新たな繁殖に向けた取組で格子越しの交尾を確認 ・「世界オランウータンの日」にボランティアと協働で紙芝居読み聞かせなど実施
18	リス科	ニホンリス	上野 井の頭	・井の頭では新聞社との共催でこども記者向けの解説を実施し、内容が新聞記事に取り上げられた。 ・生息環境を学ぶ野生リス観察会を長野県で実施した。
19	ネズミ科	アマミトゲネズミ	井の頭	・日本動物園水族館協会の計画に従い繁殖に取り組んだ ・令和 6 年度末の展示開始に向けて準備を進めた
20	オオコウモリ科	オリイオオコウモリ	上野 井の頭 大島	・各園、適正個体群を維持
21	センザンコウ科	ミミセンザンコウ	上野	・メス 1 頭の飼育を継続オスの導入を模索中。
22	ネコ科	アフリカチーター	多摩	・日本動物園水族館協会の計画に従って繁殖を目指した。 ・「国際チーターの日」にガイドを実施。
23	ネコ科	マヌルネコ	上野	・3 頭が繁殖。7 月から親子展示を開始

	科	ブーストック計画 対象種名	取組 園	取組状況
24	ネコ科	ベンガルヤマネコ	上野	・メス1頭を他園に貸出中。現在飼育個体なし。入手の可能性について調査を継続
25_1	ネコ科	アムールヤマネコ	井の頭	・飼育スペースの関係から令和6年は繁殖制限し、適切な維持管理を実施
25_2	ネコ科	アムールヤマネコ (ツシマヤマネコ)	井の頭	・環境省の計画に基づき3個体を適正に飼育 ・環境省の野生復帰センターの専門家による講演会を実施 ・「ヤマネコ祭」で保全活動を行う団体を招いて多くの人に情報発信
26	ネコ科	ライオン	多摩	・2023年に導入したオスを用いた繁殖に取り組み、メスとの交尾が確認された。
27	ネコ科	アムールトラ	多摩	・5年ぶりに1頭の出産があり、順調に成長している
28	ネコ科	スマトラトラ	上野	・昨年生まれた3頭の成長や愛称決定について情報発信 ・「世界トラの日」に合わせた動画配信を実施
29	ネコ科	ユキヒョウ	多摩	・ペアリングを実施したが、交尾には至らなかった ・「世界ユキヒョウの日」にSNSで情報発信
30	イヌ科	ヨーロッパオオカミ	多摩	・導入調整していた新規ペアのうちスイスからメス1頭を導入した。オスの導入に向けて調整継続 ・高齢個体のQOL向上に向けた飼育環境の提供を実施
31	イヌ科	フェネック	井の頭	・繁殖実績のないペアによる繁殖を目指して同居を実施したが繁殖に至らず
32	クマ科	ジャイアントパンダ	上野	・リーリー・シンシンの中国への返還を安全に実施 ・返還に向けて企画展や多くの情報発信行い、来園者への理解を深めた
33	クマ科	マレーグマ	上野	・高齢のメスのみの単性飼育が続いている。新規個体導入に向けた情報収集を実施
34	クマ科	ホッキョクグマ	上野	・大学の協力でメスへ人工授精を実施。 ・出産に向けた飼育管理を実施 ・人工授精実施について多くの情報を発信
35	クマ科	ニホンツキノワグマ	上野 多摩	・飼育環境に適した個体数の飼育管理を実施 ・上野では冬眠している状態を展示
36	イタチ科	ホンドテン	井の頭	・オスのみの飼育のため、メスの導入に向け模索中 ・繁殖に向けた参考とすることを目的に、ツシマテンの保護若オスを受け入れ
37	レッサーパンダ科	シセンレッサーパンダ	上野 多摩 大島	・日本動物園水族館協会の計画に基づき、各園が適切な飼育管理を実施 ・多摩では国内の血統更新に有用なオスを韓国から導入 ・各園SNSなどを用いて豊富な情報発信を実施
38	ウマ科	モウコノウマ	多摩	・2023年度に横浜市緑の協会に搬出した8歳メスの輸送箱への馴致について「どうぶつと動物園」春号に掲載
39	ウマ科	グレビーシマウマ	多摩	・仮収容施設で適正に飼育管理。高齢による体力低下を踏まえ新施設には移動しない予定
40	バク科	マレーバク	多摩	・「世界バクの日」に保全関連情報等について情報発信。
41	サイ科	ヒガシクロサイ	上野	・「世界サイの日」に特別トークを行う。
42	サイ科	インドサイ	多摩	・50年ぶりの繁殖。自然哺育で順調に成長。 ・繁殖についての発信や仔の命名募集などの企画を実施
43	カバ科	コビトカバ	上野	・交尾行動が確認 ・定期的なキーパーズトークの実施
44	カバ科	カバ	上野	・メスのみの単性飼育を継続 ・定期的なキーパーズトークの実施
45	ウシ科	バーバリーシープ	上野 大島	・上野での飼育は中止 ・血統に配慮した繁殖により大島で6頭繁殖に成功
46	ウシ科	ゴールデンターキン	多摩	・繁殖再開に向けて個体搬出の調整を継続

	科	ブーストック計画 対象種名	取組 園	取組状況
47	ウシ科	ニホンカモシカ	上野 多摩 井の頭 大島	- 井の頭で1頭出産があり3年連続の繁殖成功 - 大島ではオスが死亡し、メスの単独飼育となる
48	ウシ科	シロオリックス	多摩	飼育施設への移動に向け、仮収容施設で適正に飼育
49	カモ科	コクガン	多摩	メス2羽の飼育を継続。オスの導入を模索中。
50	カモ科	ハワイガン	大島	イタチなどの食害対策を実施
51	カモ科	シジュウカラガン	上野 多摩 井の頭	各園とも適度な飼育個体数を維持
52	カモ科	ヒシクイ	多摩	繁殖に取組み産卵まで進んだ。今後も取組継続
53	カモ科	マガン	多摩	産卵がみられたが無精卵であった。新たなオスの導入を急ぐ。
54	カモ科	カリガネ	多摩 井の頭	2園で繁殖があり順調に育成している
55	カモ科	オシドリ	多摩 井の頭 大島	各園適切な個体管理を行い、多摩、井の頭で繁殖
56	カモ科	トモエガモ	井の頭	飼育展示個体なし。導入に向けた情報収集を継続中。
57	キジ科	ライチョウ	上野	- 人工授精を実施し6羽が繁殖。新たな血統を確保 - 野生オスからの精液採取に成功 「世界湿地の日」に専門家を招いた講演会の実施
58	キジ科	ニジキジ	多摩	繁殖に取り組むが無精卵。産卵環境の改善、人工授精も視野に入れて、繁殖の取組を継続していく
59	キジ科	コサンケイ	上野 多摩	- 今年は計画的な繁殖制限を実施 - 産卵はしたが孵化には至らず。オスの交換を希望
60	キジ科	パラワンコクジャク	上野 多摩	- 飼育環境に適した個体数の飼育を維持 - 国内管理計画により上野及び多摩、浜松市で個体交換を実施
61	ペンギン科	オウサマペンギン	葛西	施設補修のため繁殖制限。他園との個体交換を模索した
62	ペンギン科	ケープペンギン	上野	施設補修のため繁殖制限
63	ペンギン科	フンボルトペンギン	葛西 井の頭	- 葛西で1羽の雛が成育 - 共同研究を複数実施 - 工事終了後のスポットガイドの再開
64	フラミンゴ科	オオフラミンゴ	多摩 大島	- 多摩：適切な営巣環境を提供し5年ぶりに繁殖 - 大島：分散受け入れを継続
65	フラミンゴ科	ベニイロフラミンゴ	上野	繁殖に適切な飼育環境を提供、数年ぶり1羽が繁殖
66	コウノトリ科	ナベコウ	多摩	4羽の雛が成育 - 保全で連携する韓国の大学へ成体6羽を搬出
67	コウノトリ科	コウノトリ	上野 多摩 葛西 井の頭	- 多摩：韓国の大学から搬入の有精卵の繁殖に成功 - コウノトリまつり企画など多くの普及活動を実施 - 井の頭：多摩から分散飼育個体を受入れ・葛西：施設リニューアルによる飼育展示中止
68	トキ科	ホオアカトキ	上野 多摩	- 上野：繁殖を試みたが孵化に至らず。継続する。 - 多摩：計画的な繁殖制限を行った。
69	トキ科	トキ	多摩	自然孵化、自然育雛に成功。7羽の雛が育成。
70	トキ科	ショウジョウトキ	多摩 大島	適正個体数の維持を考慮し、計画的な繁殖に取り組む、多摩で5羽の雛が成育。大島へ4羽移送
71	ハシビロコウ科	ハシビロコウ	上野	ホルモン値から卵巣が不活状態。栄養の検討中。
72	コンドル科	コンドル	上野	2016年産まれの個体を搬出予定 - 施設改修のための繁殖制限
73	タカ科	コシジロハゲワシ	上野	施設改修のため、搬出予定
74	タカ科	ダルマワシ	上野 多摩	- 施設改修のため搬出。改修後の展示計画なし - 適切な個体管理に基づき飼育
75	タカ科	クマタカ	上野 多摩	- 上野：施設改修のため繁殖制限中 - 多摩：上野から移動した1羽を適切に飼育展示中
76	タカ科	イヌワシ	多摩	適切な個体管理を実施

	科	ブーストック計画 対象種名	取組 園	取組状況
77	タカ科	ツミ	井の頭 大島	・井の頭で繁殖に向けた取組 ・大島で保護などによるオスの導入を模索中
78	タカ科	オジロワシ	多摩 大島	・適切な個体管理に基づき飼育
79	タカ科	オオワシ	上野 多摩	・日本動物園水族館協会の計画に基づき、適切な個体管理を実施
80	タカ科	ノスリ	上野 大島	・上野：上野は施設整備に伴い、現在飼育個体なし。 ・大島：繁殖に向けた取組を実施
81	ツル科	ソデグロヅル	多摩	・鳥インフルエンザ対策工事のため繁殖制限中
82	ツル科	マナヅル	多摩 井の頭 大島	・各園の飼育個体は適切に管理。日本動物園水族館協会の計画に基づき、必要に応じて繁殖に取り組む
83	ツル科	タンチョウ	上野 多摩 葛西 井の頭	・各園の飼育個体は適切に管理。日本動物園水族館協会の計画に基づき、必要に応じて繁殖に取り組む
84	ツル科	オグロヅル	上野 多摩	・日本動物園水族館協会の計画に基づき他園と連携。上野でメスのみの単性飼育となっている
85	ウミスズメ科	ウミガラス	葛西	・日本動物園水族館協会の計画に基づき繁殖に取り組む、2羽の雛が成育
86	ウミスズメ科	エトピリカ	葛西	・自然および人工で2羽が孵化するが育成せず ・遺伝的多様性、行動学などの共同研究を実施
87	ハト科	カラスバト	上野 多摩 井の頭 大島	・各園飼育個体を適切に飼育管理 ・大島と都立高校、国の研究機関で共同研究実施
88	ハト科	アカガシラカラスバト	上野 多摩 井の頭	・上野：繁殖計画に沿って繁殖制限を実施 ・血統の適切な管理のため、上野と多摩で個体交換 ・井の頭：ヤマネコ祭の企画で専門家によるトークを実施
89	ハト科	シラコバト	上野	・オスのみの飼育のため、新規メス導入を調整中
90	フクロウ科	オオコノハズク	上野 多摩 井の頭 大島	・各園の役割と状況に応じて適切な個体管理を行い、飼育を維持している ・多摩：有精卵の産卵があるも、孵化まで至らず ・井の頭：血統管理のためメスの導入情報の収集
91	フクロウ科	ワシミミズク	多摩	・既存オスと新規導入したメスと同居を進める
92	フクロウ科	フクロウ	上野 多摩 井の頭 大島	・各園の役割と状況に応じて適切な飼育管理を行った ・多摩：産卵があるものの無精卵であった ・上野：施設改修のため搬出予定
93	オオハシ科	オニオオハシ	上野 大島	・上野：施設解体のため搬出予定 ・大島：産卵し抱卵に進むが孵化には至らず
94	ハヤブサ科	ハヤブサ	井の頭 大島	・各園：繁殖に向けて飼育環境の改善に取り組む ・井の頭：UAEの飼育施設の視察、情報交換
95	カラス科	ルリカケス	上野 井の頭	・自然繁殖により雛4羽が成育 ・井の頭：4月に上野からメス1羽を受入れ飼育開始
96	リクガメ科	アルダブラゾウガメ	大島	・土を入れ替えて繁殖環境を改善 ・交尾行動はあるものの産卵には至らず
97	クロコダイル科	ニシアフリカコガタワニ	上野	・適切な個体管理を実施し、交雑種の搬出と純粋種の導入を模索している
98	ワニトカゲ科	チュウゴクワニトカゲ	上野	・繁殖に向けて取組みつつ新規個体導入も模索
99	サンショウウオ科	トウキョウサンショウウオ	上野 葛西 井の頭	・各園の役割に応じた個体管理を実施 ・葛西では飼育環境を改善し繁殖に成功。企画展示「水辺の自然」生き物において成体展示を再開
100	イモリ科	アカハライモリ	上野 多摩 葛西 井の頭	・各園安定した個体群の維持を実施 ・生息域内にて調査と環境整備を継続 ・葛西では小学校への出張授業、高校生物部との合同調査を実施

	科	ブーストック計画 対象種名	取組 園	取組状況
101	イモリ科	イボイモリ	上野	・飼育状況を考慮し繁殖制限
102	ヒキガエル科	アズマヒキガエル	上野 多摩 葛西 井の頭	・飼育環境に適した個体数の飼育を維持している ・井の頭で繁殖に成功
103	アマガエル科	ニホンアマガエル	上野 葛西 井の頭	・上野、井の頭、適切な個体管理を実施 ・葛西、リニューアルに伴い飼育展示を中止
104	アカガエル科	ニホンアカガエル	上野 葛西 井の頭	・井の頭で繁殖に成功 ・多摩も含め4園で繁殖に取り組む
105	アカガエル科	トウキョウダルマガエル	上野 葛西 井の頭	・各園の役割に応じた個体管理を実施 ・葛西の個体群を井の頭に集約
106	アカガエル科	ムカシツチガエル※	上野 葛西 井の頭	・各園の役割に応じた個体管理を実施 ・各園で繁殖に成功
107	アカガエル科	ヤマアカガエル	上野 多摩	・各園の役割に応じた個体管理を実施
108	アオガエル科	カジカガエル	上野 葛西 井の頭	・各園の役割に応じた個体管理を実施
109	アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	上野 多摩 葛西	・各園の役割に応じた個体管理を実施
110	アオガエル科	モリアオガエル	上野 多摩 葛西	・各園の役割に応じた個体管理を実施
111	メジロザメ科	アカシュモクザメ	葛西	・繁殖に適した健康な個体を育成中。繁殖可能な体サイズに達するにはあと数年必要と考えられる
112	コイ科	ミヤコタナゴ	井の頭	・新規導入個体群の繁殖を継続させている
113	コイ科	ゼニタナゴ	葛西	・累代飼育を安定的に継続している ・産卵に必要な二枚貝を用いた採卵も実施
114	メダカ科	ミナミメダカ	葛西 井の頭	・葛西で調布市産及び葛飾区産の個体、井の頭で杉並区産の個体を飼育。それぞれの個体群で繁殖
115	トゲウオ科	ムサシトミヨ	井の頭	・安定した繁殖実績で、累代飼育を継続している
116	ヨウジウオ科	タツノオトシゴ	葛西	・飼育個体が死亡したため、近縁種で飼育繁殖技術の獲得に取り組んでいる。
117	ベラ科	メガネモチノウオ	葛西	・適切な個体管理に基づき飼育。新規導入を模索。
118	ハゼ科	トビハゼ	葛西	・仔魚の育成環境を良好に維持し、稚魚の育成に初めて成功した ・親子向けプログラム「トビハゼの調査地を訪ねる」を実施
119	シジミチョウ科	オガサワラシジミ	多摩	・飼育受け入れ態勢維持のため食草管理、近縁種の飼育を継続 ・生息地での調査に飼育担当職員が参加
120	ナンバンマイマイ科	アナカタマイマイ	上野 多摩	・各園の飼育個体は適切に維持、管理 ・上野ではチチジマカタマイマイを新たに飼育開始 ・環境省と協議し、遺伝的多様性に配慮しながら計画的な繁殖に取り組んでいる
121	ナンバンマイマイ科	カタマイマイ	葛西 井の頭	・遺伝的多様性に配慮しながら、安定的な繁殖を目指して飼育を継続 ・葛西ではキノボリカタマイマイを新たに飼育開始 ・環境省と協議し、遺伝的多様性に配慮しながら計画的な繁殖に取り組んでいる
122	ミドリイシ科	スギノキミドリイシ	葛西	・6.5t水槽で飼育管理。産卵誘発を試みた ・SNS等での情報発信や、「いきものミカタプロジェクト」でサンゴ類の状況や保全の取組について発信

	科	ブーストック計画 対象種名	取組 園	取組状況
123	アザミサンゴ科	アザミサンゴ	葛西	・LED 照明下で順調に成長。繁殖に向けてサンゴ類の成長により良い照明への更新を予定する ・SNS 等での情報発信や、「いきものミカタプロジェクト」でサンゴ類の状況や保全の取組について発信
124	キクメイシ科	キクメイシ	葛西	・LED 照明下で順調に成長。繁殖に向けてサンゴ類の成長により良い照明への更新を予定する ・SNS 等での情報発信や、「いきものミカタプロジェクト」でサンゴ類の状況や保全の取組について発信